



古河駐屯地 納涼大会



平成二十八年七月二十日、夏真っ盛りの中、地域住民との親睦を深め、駐屯地に対する理解と信頼関係の醸成を図るとともに、隊員・家族との融和・団結の促進を図る目的で「古河駐屯地納涼大会」が実施された。

今大会は、古河駐屯地と古河駐屯地後援会の共催、隊友会古河支部・古河自衛隊協力会の協賛により行われた。

納涼大会には、議員等や古河自衛隊協力会・古河駐屯地後援会・駐屯地各OB会等の招待者及び地域住民等の一般来場者を含めた、約一万三千人の来場者で盛大に行われた。

イベントでは、子供達を対象としたジャンケン大会を皮切りに、キッズダンスや和太鼓演奏、タヒチアンダンス、スコップ三味線が行われ、会場を盛り上げた。セレモニー後に行われた盆踊りでは、隊員・地域住民等が輪になって踊り、会場がひとつになった。

また、曹友会が行ったちびっこ広場の射的や輪投げ、公募による売店等は、絶えず来場者で賑わい、長い行列が出来るほど大盛況であった。

夜も更け、盛り上がりも最高潮になった時、打ち上げ花火約二百発と仕掛け花火のナイアガラが駐屯地の夜空を彩ると、来場者から大きな拍手と歓声があがり、今大会も盛会のうちに終了した。



花火



全体写真



ちびっこ広場（曹友会（射的））



スコップ三味線



タヒチアンダンス

祝！新隊員修了式



祝賀会食



集合写真



隊旗返納



修了式

九月十五日、平成二十八年新隊員後期教育修了式が、駐屯地体育館で行なわれた。

新隊員四十六名は、約三ヶ月の特技課程を終え、自信に満ちた表情で来賓及び家族の見守る中、式に臨んだ。

執行者の第三〇七施設隊長 古橋二佐は、「今後の諸君らの活躍を期待している。」と式辞を述べた。また、来賓を代表して、隊友会古河支部長内藤勝義様から「古河の暑い地にも負けず、教育修了おめでとうございませう。」と祝辞をうけた隊員達は、真剣な眼差しで聞きいつていた。

その後、人事発令通知が伝達され、隊員一人一人の名前と配属先が告げられた。

式終了後、駐屯地隊員食堂において祝賀会食が行われ家族・同期・助教達と会食を楽しんだ。また、家族からは「逞しく成長した姿に感動しています。」と久しぶりに再会した我が子の姿を頼もしそうに見つめながら、有意義な時間を過ごしていた。

会食も終了し、隊舎横には、配置部隊先からの迎いの車両が並び、出発までの間、隊員達はお世話になった助教や同期との別れを惜しみ、固い握手と再会を誓い合い、それぞれの配置部隊に向け、教育隊を巣立つて行った。

（この欄は上記の文章と重複する内容のため省略）

補給等業務訓練



視察状況



概要説明



梱包状況



積載状況

十月五日から六日の間、関東補給処古河支処は、補給統制本部が計画する補給等業務訓練に参加し、その一環として、築城資材（戦車用ライナープレート）等のコンテナへの積載・梱包要領を演練・検証した。本訓練は、西方の実動演習「鎮西二十八」に連繋し、方面隊を跨いで実施するものであり、築城資材等を積載したコンテナは、民間船舶により沖縄本島に輸送・集積される。六日には、関東補給処長（金丸陸将）、補給統制本部副本部長（熊本陸将補）及び第一施設団長兼古河駐屯地司令（平栗陸将補）が視察し、古河支処における兵站支援の一端を確認した。

職場体験学習



実技体験



基本教練

七月二十七日から九月二日までの間、中学校の総合的な学習の時間の一環として実施する、職場体験学習の支援を十六校五十二名に対し行った。生徒達は、駐屯地の中に入るのが初めてという事もあり、不安な気持ちと緊張感でいっぱいであった様子だったが、駐屯地施設見学や自衛隊に関する説明・広報ビデオ視聴等の科目が進み、担当した隊員達と接するうちに、次第に中学生達の表情も和らいできた。実技体験は基本教練や救急法を体験した。



ブリーフィング

た。始めは戸惑っていたが、全員熱心に取り組む、短時間のうちに間違えるほど上達した。参加した生徒達からは、「自衛隊がより身近な職業に感じられました。」「昼食が、とてもおいしかったです。」「今日の体験を今後の生活や進路選択に役立てたいです。」等の感想がよせられた。



隊員による展示



記念撮影

（予定）の紹介 定年退官者



支処 山田 2尉
12月27日付



ダンプ 三ツ木 准尉
1月30日付

関東補給処古河支処

富士総合火力演習支援

八月十四日から二十八日の間、富士総合火力演習を支援した。

期間中、駐屯地において古河支援班を編成するとともに、富士地区へ富士派遣隊施設班を派遣し支援態勢を確立、部隊からの要望に基づき計六回の輸送を含む、三十三品目三百十九品の部品補給を実施し、富士総合火力演習の成功に寄与した。

現地の隊員は、処長及び支処長の激励を受け、士気高らかに任務を遂行することができた。



処長現地視察受



部品補給

家族の日（駐屯地納涼大会）

七月二十日、駐屯地納涼大会に併せ、「家族の日」を実施した。

当日は、隊員家族計四十七名が参加し、支処の概要や人事施策等について、ブリーフィングを実施した後、各職場を案内した。その後、参加家族は、隊員と合流して、駐屯地納涼大会に参加し、バーベキューや盆踊り・花火等、楽しい一時を過ごした。



ブリーフィング



職場見学

古河駐屯地業務隊

不要決定車両等の売り払い

八月一日から五日の間、補給科は、不要決定車両、鉄屑・廃材の売り払い処分を行った。

各DS整備工場・野積庫にあった廃材は、約八十八m³あり当初の見積りより二十m³多く、廃材の見積り作業は困難な状況であったが、適切に処置することが出来た。

今後は、適切な見積作業及び経費削減のため、各部隊廃材の分別に協力したい。



鉄屑・廃材処分

調理実習支援



調理実習

八月十八日から三十一日までの間、糧食班は、国際学院埼玉短期大学の学生二名の調理実習を支援した。

この間、調理や配食の自習のほか、月間の献立や栄養紹介資料を作成し、十月または十一月には実際の献立や食堂の卓上の資料に反映される予定である。

ストレッチャーの搭載・卸下訓練



訓練状況

七月六日、衛生科は、JXRにおいてストレッチャー（担架）の取り扱い要領及び救急車への搭載卸下訓練を実施し、患者発生時の即応態勢の維持・向上を図った。

納涼大会照明設備



点灯した櫓

七月十一日から二十一日の間、営繕班は、納涼大会の電気配線作業を実施した。

駐屯各部隊の支援を受け合計二十名で櫓周りの電気配線、提灯取り付け、雪洞への配線及び招待者席への照明設備など納涼大会の要である照明を無事点灯することができ、大会の成功に寄与することができた。



第101施設器材隊



平成二十八年度 隊戦技競技会

九月一日、台風シーズン中に施設戦技競技会を実施した。

午前には実施した断郊走競技においては灼熱の中、選手一同、力走し各組ともゴールを目指した。

午後には利根川において、漕舟競技会が行われ各組は舟長の采配により台風十号の通り過ぎた増水中の河川を攻略して進み、流れの強い水流に向かい選手全員呼吸を一致させ全身全霊で立ち向かった。

競技結果は、断郊走は架橋Bチームが、漕舟は架橋Aチームが優勝し施設戦技優秀中隊の看板を架橋中隊が手にした。架橋中隊は七月十五日に実施した銃剣道競技会においても優勝をされており、今年度の架橋中隊は二枚の優秀看板を奪取し戦技総合優秀中隊の称号を手に入れた。



漕舟競技



断郊走競技



平成28年度総合優勝 架橋中隊

第301ダンプ車両中隊



負傷者空輸する隊員



道路拡幅工事

九月十五日から十七日の間、関山演習場において、中隊長以下五十六名が、「作戦基本部隊の後方地域において、全般支援に任ずるダンプ車両中隊の行動」について訓練検閲を受閲した。

中隊長は、中隊長要望事項「思いやりを持って」、「ベストを尽くせ」のもと、機械力の最大限の活用により、機動路の拡幅工事、人力による道路閉塞作業及び古河駐屯地から高田駐屯地までの物資輸送の任務を無事故で完遂し、「優良」の評価を得る事が出来た。

第102施設直接支援大隊



中隊研修

七月四日から八日まで、自衛隊統合防災演習に参加し、南海トラフ地震発生時における対処計画の検証を実施した。また、本演習を通じ震災対処時における初動を重視した有機的な指揮幕僚活動能力の向上を図った。



優勝中隊

八月九日、古河駐屯地において、大隊持続走競技会を実施して、体力気力の向上を促すとともに、部隊の団結の強化及び士気の高揚を図り、強靱な大隊の一助とした。

320基地通信中隊 古河派遣隊



中隊長による現場指導

八月二十六日から三十日の間、第二回群・大隊統一訓練が実施された。

訓練間、隊員達は回線構成、無線訓練、通信所及び施設の警備訓練等を行い、有事への備えを万全とすべく各々熱意をもって訓練に励んだ。

また、中隊長による現場指導も行われ、中隊長自ら派遣隊の訓練の練度を確認し、隊員たちを激励した。

第337高射中隊



種市 2士 田子 1士



山道を駆け登る選手

八月七日、第四十一回秩父宮記念富士登山駅伝競走大会に参加した。中隊からは、岩崎二曹が第四区・八区、山崎士長が第六区走者として出場し、群の良好な成果獲得に貢献した。最後まで諦めず走り続けた選手達は、来年度の大会に向け更なる努力を追求し、飛躍を誓った。

九月十四日、新たな戦力となる新隊員二名が着隊した。期待に満ち、緊張した面持ちではあったが、諸先輩の話をよく聞き、決意表明において確固たる意志を感じさせる姿は、今後の成長・活躍が大いに期待される。これから初心を忘れず、任務達成のため、日々邁進していつともらいたい。



中山 2士

九月十六日、新配置隊員として中山璃穂二士が古河派遣隊に配置された。

中山二士は、霞ヶ浦駐屯地にて配置前教育を受けており、派遣隊着隊後は搬送手として勤務することとなっている。

中山二士が一日でも早く部隊での勤務に慣れるよう、派遣隊一同応援するとともに、これからの活躍に期待したい。

新隊員紹介

各部隊等に、新隊員二十八名が配属された。(部隊記事で紹介された隊員除く。)

中村 2士	安田 2士	谷合 2士	木村 1士
田口 2士	矢島 2士	小林 2士	管 1士
小林 2士	内山 2士	新井田 2士	磯山 1士
村上 1士	黒澤 2士	西川 2士	濱野 2士
松岡 2士	渡来 2士		

第341会計隊



第2回体力検定

九月五日、平成二十八年度第二回体力検定を実施した。第1回目に参加できなかった隊員や霞ヶ浦派遣隊員、新隊員が参加し、各人が普段の練成の成果を発揮した。



小林 2士 岡村 1士 嶋田 3曹 小島 2士 杉山 2士

八月一日付、定期異動で嶋田三曹が、九月五日付で新たに、小林二士、小島二士、岡村一士、杉山二士が配属された。